

第4章 地域別マスタープラン

4-1 地域区分の設定

4-2 地域別マスタープラン

第4章 地域別マスタープラン

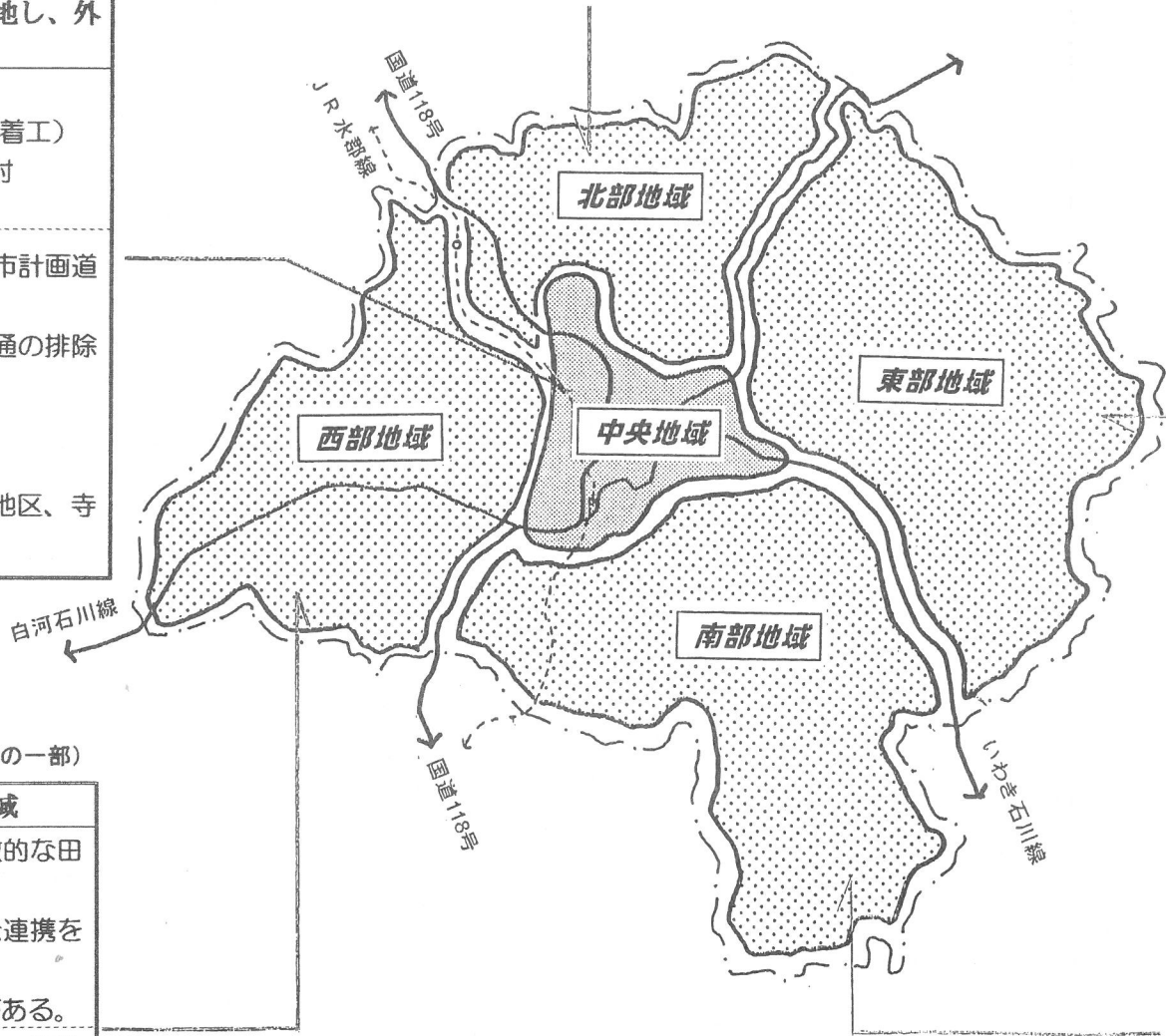
4-1 地域区分の設定

第3章で述べた地域特性に応じた4つのゾーン区分を基本に、道路や河川、鉄道等の地形地物を加味し、都市的土地利用ゾーンからなる「中央地域」、臨空型産業展開ゾーン及び山林・レクリエーションゾーンからなる「北部地域」、森林レクリエーションゾーンからなる「東部地域」、「南部地域」、農業的土地利用ゾーンからなる「西部地域」の5地域に区分を行うものとする。

中央地域	石川地区 中谷地区の一部（本宮・双里・形見の一部）
…急傾斜地が迫る平坦地に商業、公的施設、利便施設等が立地し、外縁部には市街地化が進む住宅地がみられる地域	
地域の位置づけ及び課題	○石川郡の中心商業地としての活性化 ○（主）いわき石川線バパス整備（H12年度着工） ○都市計画道路や街区公園等の基盤整備の検討 ○長久保地区の適正な土地利用の誘導
今後のまちづくりの方向	○旧町内の空き店舗等の有効活用、未整備都市計画道路や歩行者空間、オープンスペース等の整備促進 ○いわき石川線バパス等の整備による通過交通の排除と交通体系の確立 ○長久保地区における新市街地の形成 ○双里・形見地区におけるまちづくりの推進 ○今出川、北須川等の河川、八幡山等の風致地区、寺社境内等の保全と活用
◆将来像	『身近な緑や川を守り、憩いと賑わいの場を創造するまちづくり』

西部地域	沢田地区 石川地区の一部（王子平・和久・新屋敷・新田の一部）
…白河方面に近接した、主に農業的な土地利用の多い地域	
地域の位置づけ及び課題	○水、緑、集落地、幹線道路等による特徴的な田園景観の形成がみられる。 ○白河方面に近接しているため、広域的な連携を図っていく地域として位置づけられる。 ○石川フェニックス構想・フェニックスゾーンの計画地がある。
今後のまちづくりの方向	○高生産性農業ゾーンとしての農業生産基盤の整備 ○幹線道路沿道の無秩序な市街化の抑制、既存集落地における良好な居住環境の形成 ○周辺環境と調和したフェニックス構想ゾーンにおける複合的な市街地整備 ○広域幹線道路及び地域間連絡道路の強化、地域資源等を活用した「観光と歴史の回廊」の形成
◆将来像	『田園風景を守り、ゆとりある生活空間を創造するまちづくり』

北部地域	野木沢地区 母畑地区の一部（母畑）
…野木沢地区、母畑温泉郷を含む主に山林や農地の多い地域	
地域の位置づけ及び課題	○あぶくま高原道路に近接しているほか、福島空港アクセス道路の延伸路線の位置にある。 ○母畑温泉郷の魅力ある温泉街としての環境整備の必要性、周辺観光資源との連携強化
今後のまちづくりの方向	○福島空港及びあぶくま高原道路を活用した、流通・工業・観光等を総合的に捉えた臨空型産業の展開 ○福島空港への利便性向上のための空港アクセス道路の整備 ○農業生産基盤の整備と一部農地の多面的利用の検討 ○野木沢等の既存集落における良好な居住環境の形成 ○母畑温泉を核とした保養交流拠点、既存観光資源等のネットワークによる「観光と歴史の回廊」の形成
◆将来像	『温泉を核としたやすらぎの空間と新たな産業を生み出すまちづくり』



東部地域	中谷地区の一部（形見・谷沢・坂路・谷地・中田） 母畑地区の一部（湯郷渡・北山）
…母畑湖やゴルフ場などレジャー施設が立地する主に山林の多い地域	
地域の位置づけ及び課題	○母畑湖、ゴルフ場などのレジャー機能を備えているが、観光資源として十分な活用がなされていない。 ○今出川周辺の多面的な土地利用の検討 ○母畑湖周辺はあぶくま新都市（仮称）のエリアの一部に位置づけられる。
今後のまちづくりの方向	○水源涵養等の観点からの森林保全と、緑とのふれあいの場としての保護・活用 ○既存集落地や沿道住宅地における良好な居住環境の形成と集落間ネットワークの強化 ○今出川建設を契機とした周辺地域の基盤改善、レジャー機能等を備えた地域交流拠点の形成 ○母畑湖及びレクリエーションセンターのスポーツ・レクリエーション機能の拡充
◆将来像	『豊かな森林と水を守り、様々な活動を育むまちづくり』

南部地域	山橋地区
…国道118号、いわき石川線に挟まれた主に山林の多い地域	
地域の位置づけ及び課題	○大半が都市計画区域外であり、森林に囲まれるように小規模な集落地の点在がみられる。 ○（主）いわき石川線沿線の一部の農地や広大な面積を有する森林資源の多面的な活用の可能性。
今後のまちづくりの方向	○水源涵養等の観点からの森林保全と、緑とのふれあいの場としての保護・活用 ○点在する集落地における良好な居住環境の形成と集落間のネットワークの強化 ○豊かな自然環境に包まれた、保養・別荘地等としての利用の検討 ○いわき石川線バパス整備に伴うスロープの防止と農地の多面的利用の検討
◆将来像	『森林と農地が織りなす風景を守り、自然と共生するまちづくり』

1. 中央地域

●地域の概要

- ◇商業、公的施設、便利施設等が集積しており、石川の中心商業地となっている。
- ◇周囲を急峻な傾斜地に囲まれ、市街地の中央を縫うように今出川、北須川が流れている。
- ◇外縁部は市街地が進んでいる。
- ◇用途地域指定は286.0ha（平成9年現在）

●土地利用状況

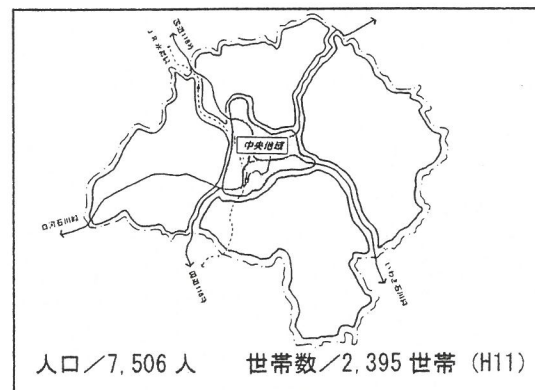
- ◇（主）白河石川線沿道を中心として商業地が形成されており、商業地周辺や幹線道路等の背後は住宅地となっている。
- ◇（主）いわき石川線沿道は沿道型の商業施設及び工場等が立地している。
- ◇（主）いわき石川線と今出川に挟まれた地区は住宅地と農地が混在している。

●主要な生活支援施設

石川小学校／石川中学校／県立石川高校／学法石川高校／石川町役場／石川警察署／石川郵便局／石川町総合運動公園／石川町商工会館／いわき石川青年会議所／石川地方火葬場／石川町中央公民館／あさひ公園／（他多数有）

●主要な観光施設

猫啼温泉／片倉温泉／石都々古和気神社／薬王寺／乗蓮寺／歴史民族資料館



●交通

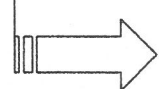
- ◇当地域の西側を国道118号が南北に走っているほか、（主）白河石川線、飯野三春石川線、いわき石川線がそれぞれ市の中心部から放射状に伸びている。
- ◇中心部を通過する主要地方道は鉤状の道路も見られ、拡幅等の整備は困難な状況である。
- ◇JR水郡線磐城石川駅が立地する。

●開発動向・主要なプロジェクト等

- ◇（主）いわき石川線バイパスの整備
- ◇石川町総合運動公園の整備
- ◇今出ダム（隣接地域）の建設
- ◇長久保地区における新市街地の形成
- ◇今出川親水公園の整備

【地域の位置づけ及び課題】

- ◇石川郡の中心商業地としての活性化、市街地環境の創出
- ◇都市計画道路や街区公園等の基盤整備の検討
- ◇（主）いわき石川線バイパス整備の促進
- ◇長久保地区、今出ダム下流域における適正な土地利用の検討



今後のまちづくりの方向

『身近な緑や川を守り、憩いと賑わいの空間を創造するまちづくり』

- ◇旧町内における空き店舗等の有効活用、未整備都市計画道路やオープンスペース等の整備促進
- ◇いわき石川線バイパス等の幹線道路整備による、通過交通排除のための交通体系の確立
- ◇長久保地区における新市街地の形成
- ◇今出ダム下流域における新たな拠点の形成
- ◇身近な自然環境として今出川、北須川等の河川、八幡山等の風致地区、寺社境内等の保全・活用



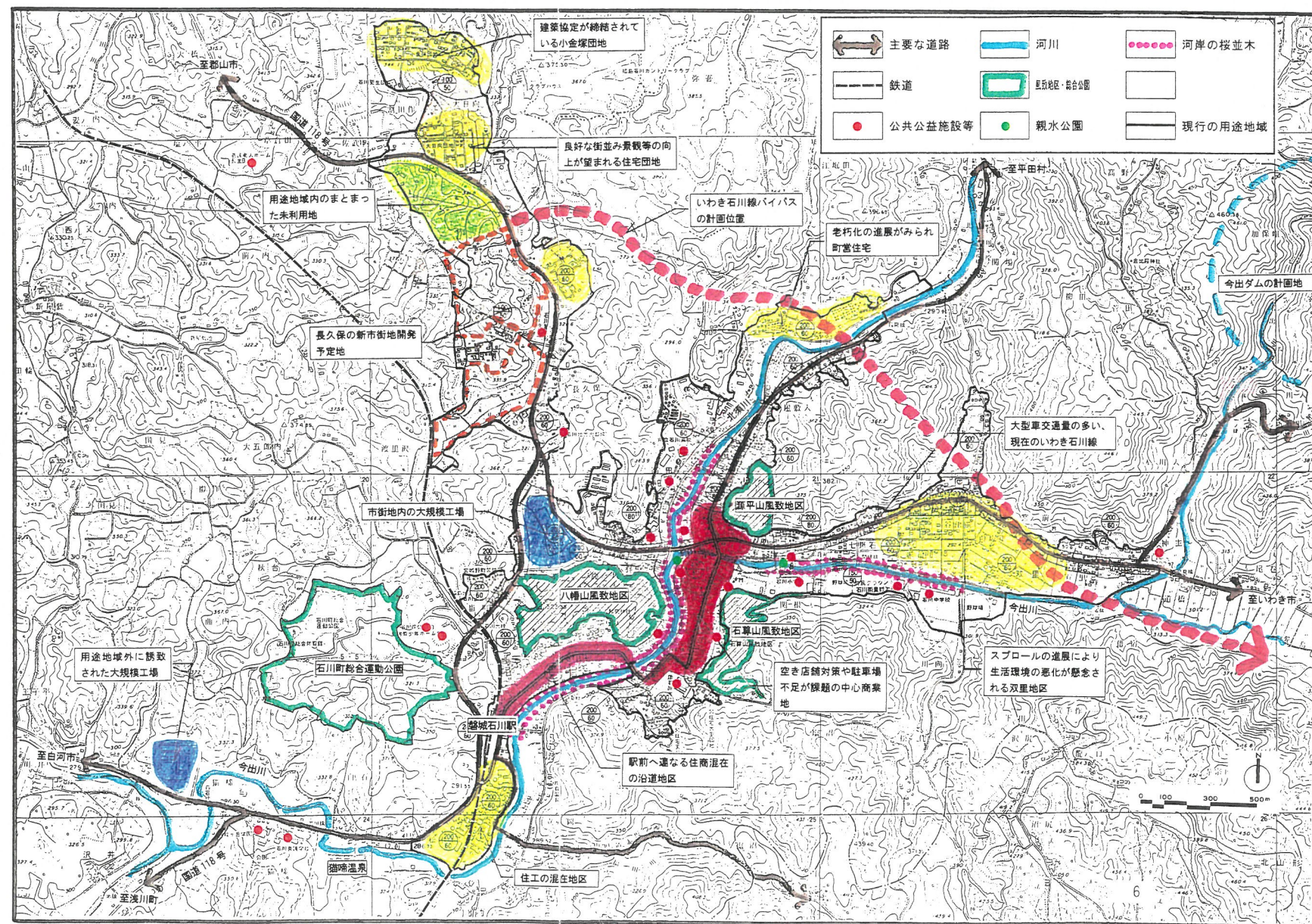
■今出川河岸のあさひ公園



■中心商業地の現状



■スプロールが進む双里地区



中央地域のまちづくりの方針

◆ まちづくりのテーマ

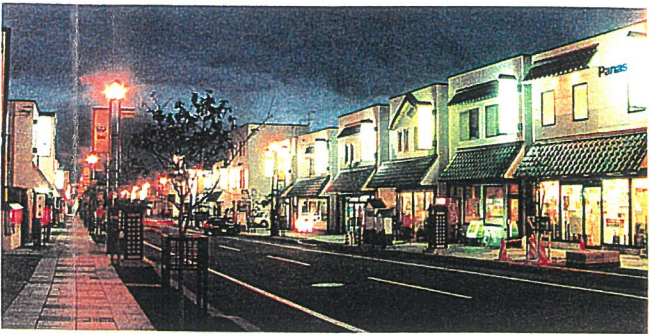
『身近な緑や川を守り、憩いと賑わいの場を創造するまちづくり』

◆ まちづくりの方針

- ① 町内における空き店舗等の有効活用を図り、身近なオープンスペースの整備や快適な歩行者空間の整備により、中心商業地にふさわしい市街地環境を創出する。
- ② いわき石川線バイパス等の幹線道路の整備を進め、通過交通排除のための交通体系を確立する。
- ③ 社会経済情勢等の変化も踏まえながら、長久保地区において沿道土地利用等の促進と低未利用地の有効活用による新市街地の形成を図る。
- ④ いわき石川線バイパス及び今出ダム建設により、双里・形見地区におけるまちづくりの推進を図る。
- ⑤ 身近な環境資源として、今出川及び北須川等の河川、八幡山等の風致地区及び寺社境内等の保全と活用を図る。

◆ 土地利用の方針

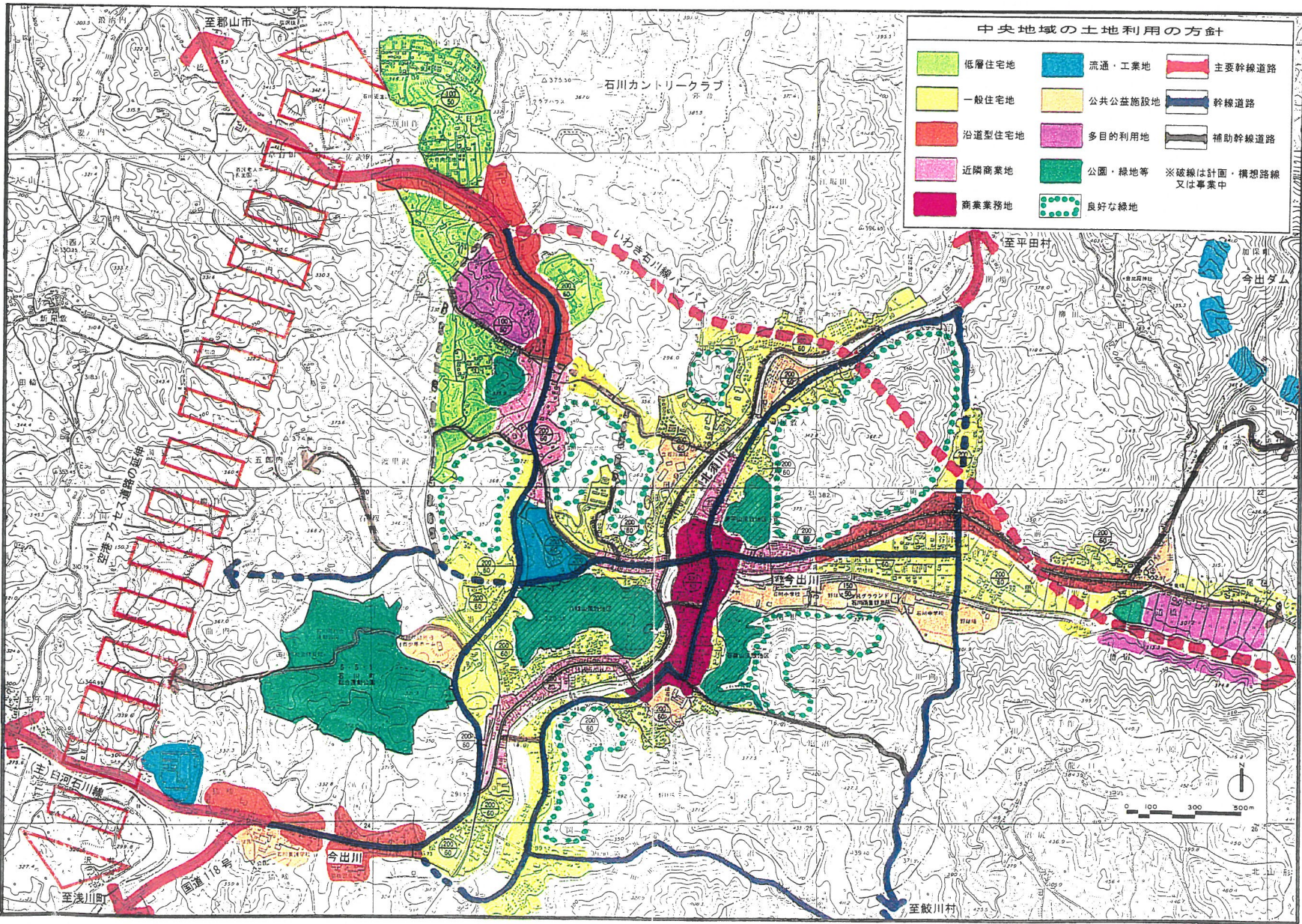
土地利用区分	土地利用の方針
低層住宅地	・ 長久保地区の周辺や既存の住宅団地（小金塚団地、大日向団地）等において、戸建て住宅を主体とした良好な居住環境の形成を図る。
一般住宅地	・ 商業地周辺、幹線道路等の背後の住宅地について、生活利便施設と調和した居住環境の維持・向上を図る。
沿道型住宅地	・ 幹線道路沿道においては、店舗や自動車利用型施設と住宅が調和した沿道型住宅地の形成を図る。
近隣商業地	・ 中心市街地の商業業務地に隣接した道路沿道等において、店舗やサービス施設等を主体とした近隣商業地の形成を図る。
商業業務地	・ 既存の商業集積を活かしつつ、地区更新や都市基盤等の改善により、住民ニーズに応える中心商業地の形成を図る。
流通・工業地	・ 大規模な工場用地等の操業環境の維持と周辺環境の調和を図る。
多目的利用地	・ 都市基盤整備により地区構造に変化が生じる双里・形見地区や長久保地区において、多目的な土地利用（沿道型商業、行政サービス等）が可能となる新たな拠点形成を図る。
公共公益施設地	・ 既存の町民グランド周辺等において、公共公益施設地の形成を図る。
公園・緑地等	・ 公園・緑地の適切な配置を図るとともに、市街地に隣接するまとまった緑地については、風致地区と一体となった保全を図る。



■ 中心商業地のイメージ



■ 新市街地の住宅地イメージ



中心市街地のまちづくりイメージ（参考）

凡 例

幹線道路	緑水公園
補助幹線道路	広場的な空間の整備
歩行者ネットワークの形成	主要な公共施設の整備等
シンボリック空間の形成	寺社・境内・史跡等
界隈性のある空間の形成	風致地区

地図上の注釈:

- 路地裏的空間を活用した歩行者ネットワークの形成
- 中心商店街のシンボリック広場の整備
- 歩行者空間の拡充や街並みのデザイン誘導等によるシンボリック空間の形成
- 空き店舗用地等を活用した広場的空間の整備
- 桜並木の映える歩行者ネットワークの形成
- 駅と一体となった広場空間等の整備
- 地区更新に伴う歩行者空間の拡充等

スケール: 1:5000
0 50 100 200 300 m

凡 例

幹線道路	緑水公園
補助幹線道路	広場的な空間の整備
歩行者ネットワークの形成	主要な公共施設の整備等
シンボリック空間の形成	寺社・境内・史跡等
界隈性のある空間の形成	風致地区

中心市街地のまちづくりイメージ (参考)

駅と一体となった広場空間等の整備

桜並木の映える歩行者ネットワークの形成

空き店舗用地等を活用した広場的空間の整備

歩行者空間の拡充や街並みのデザイン誘導等によるシンボリック空間の形成

中心商店街のシンボリック広場の整備

路地裏的空間を活用した歩行者ネットワークの形成

1:5000

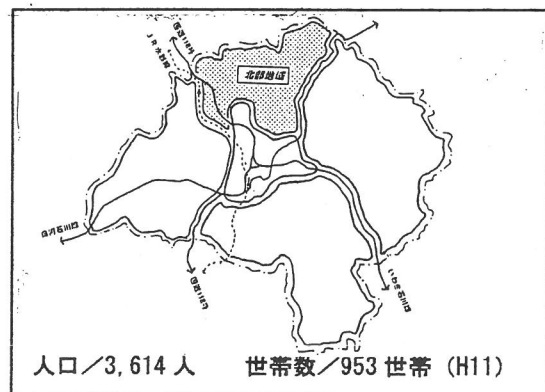
0 50 100 200 300 m

Distance (m)	Time (s)
0	0
50	10
100	20
200	40
300	60

2. 北部地域

●地域の概要

- ◇山林や農地が大部分を占め、それらに囲まれるように小規模な集落が点在している。
- ◇西部工業団地が形成されている。
- ◇放射性物質含有量東北一を誇る母畑温泉郷がある。
- ◇全域が都市計画区域内である。



●土地利用状況

- ◇山林が多くを占め、山あいには農地、集落が形成されている。
- ◇地域の東側には北須川が流れている。
- ◇野木沢地区は比較的まとまった集落が形成されている。そのほかには国道118号、県道の沿道に小規模な集落が形成されている。

●交通

- ◇当地域の西側を走る国道118号は須賀川市で国道4号と結節し郡山方面へと結ばれている。
- ◇東側には(主)飯野三春石川線、古殿須賀川線がそれぞれ玉川村、須賀川市方面に伸びているほか、(県)母畑白河線がそれらを環状的に結んでいる。
- ◇J R水郡線野木沢駅が立地する。

●主要な生活支援施設

母畑小学校/野木沢小学校/母畑地区公民館
/野木沢地区公民館/養護老人ホーム長生館

●開発動向・主要なプロジェクト等

- ◇あぶくま高原道路に近接(地域の北側)
- ◇国道118号と県道石川矢吹線を結ぶ農免農道の整備(事業中)
- ◇国道118号佐武内付近より福島空港へと結ぶ空港アクセス道路の延伸構想
- ◇あぶくま新都市(仮称)の一部

●主要な観光施設

母畑温泉/禿山温泉/福島石川カントリークラブ/小和清水/式部堂/平安住居/観光リンゴ園/クレー射撃場

【地域の位置づけ及び課題】

- ◇地域の北側に隣接するあぶくま高原道路や福島空港アクセス道路の延伸構想実現による広域交通の優位性
- ◇母畑温泉郷の魅力ある温泉街としての環境整備の必要性、周辺観光資源との連携強化

今後のまちづくりの方向

『温泉を核としたやすらぎの空間と新たな産業を生み出すまちづくり』

- ◇福島空港及びあぶくま高原道路を活用した、流通・工業・農業・観光等を総合的に捉えた臨空型産業の展開
- ◇広域的な利便性向上のための空港アクセス道路の延伸路線整備
- ◇農業生産基盤の整備と一部農地の多面的利用の検討
- ◇野木沢等の既存集落地における良好な居住環境の形成
- ◇母畑温泉を核とした保養交流拠点の創造、既存観光資源等のネットワークによる「観光と歴史の回廊」の形成

北部地域の特性図



0 500 1000 1500 M

あぶくま高原道路の計画路線

丘陵地と農地に挟まれるように小規模な集落が点在している。

小規模な集落地と農地が点在している。

平田村

リンゴ園などの果樹園が点在している。

母畑湖

観光リンゴ園

北須川沿いに農地が広がっている。

大規模な旅館も立地している母畑温泉郷。しかし温泉街の街並みとしての魅力は少ない。

母畑温泉保養交流拠点

北須川

飯野三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

三ツ石川線

比較のまとまった農地が形成されている。

福島空港

福島空港7ヶ所道路構想

玉川村

至郡山方面

J R 水郡線

野木沢駅周辺のまとまった集落地。

野木沢駅

西部工業団地が形成されている。

山林に囲まれた禿山温泉。

農免農道が事業中である。

いわき石川バース計画

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

石川地方火葬場

山林	主要な道路
農地	鉄道
集落地	生活支援施設
工業団地	観光施設
ゴルフ場	
河川 等	都市計画区域

北部地域のまちづくりの方針

◆ まちづくりのテーマ

『温泉を核とした、やすらぎの空間と新たな産業を生み出すまちづくり』

◆ まちづくりの方針

- ① 福島空港及びあぶくま高原道路を活用した、流通・工業・農業・観光等を総合的に捉えた臨空型産業の展開

⇒福島空港とあぶくま高原道路の整備により期待される陸と空の交通利便性を十分に活用し、流通や工業系の産業のみではなく、農産物・花卉類、観光資源等を総合的に捉えた、臨空型産業の展開を図る。

- ② 広域的な利便性向上のための空港アクセス道路の延伸路線整備

⇒臨空型産業の展開を促進し、福島空港及び広域的な利便性の向上を図るため、空港アクセス道路の延伸路線（あぶくま高原道路より南側）についての事業化を進める。

- ③ 農業生産基盤の整備と一部農地の多面的利用の検討

⇒臨空型産業の一翼を担うための農業生産基盤の整備を図るとともに、一部の農地については、観光農園やレクリエーション機能等を付加した多面的な利用を検討する。

- ④ 野木沢等の既存集落地における良好な居住環境の形成

⇒人口の増加が顕著である野木沢駅周辺、また母畑温泉周辺及び曲木の既存集落などにおいては、地域基盤の整備等を図り、ゆとりのある良好な居住環境の形成を図る。

- ⑤ 母畑温泉を核とする保養交流拠点、既存観光資源等のネットワークによる『観光と歴史の回廊』の形成

⇒母畑温泉郷を核とした保養交流拠点の形成を図るとともに、既存の観光及び歴史的資源として考えられる、「式部堂」、「小和清水」、「禿山温泉」、「藤田城址」等をネットワーク化した『観光と歴史の回廊』の形成を図る。

- ⑥ あぶくま新都市（仮称）の実現

⇒母畑ダム周辺等においては、長期的な視点で自然環境との調和を図りながら、福島県及び隣接町村との協力のもと、新都市の実現を検討する。

北部地域のまちづくりの方針図

	森林及び農地		都市間を連絡する道路		臨空型産業展開ゾーン
	集落地・住宅地		地域間連絡道路		保養交流拠点
	工業団地		その他の道路		野外スポーツ・レクリエーション拠点
	ゴルフ場		観光と歴史の回廊		あぶくま新都市(仮称)想定区画
	生活支援施設		鉄道		
	観光レクリエーション施設		河川・水系		

森林の維持・保全を図るほか、一部の農地においては観光農園やレクリエーション機能等を付加した多面的利用を図る。
また、あぶくま新都市(仮称)に位置する地域においては、居住機能の導入なども検討する。

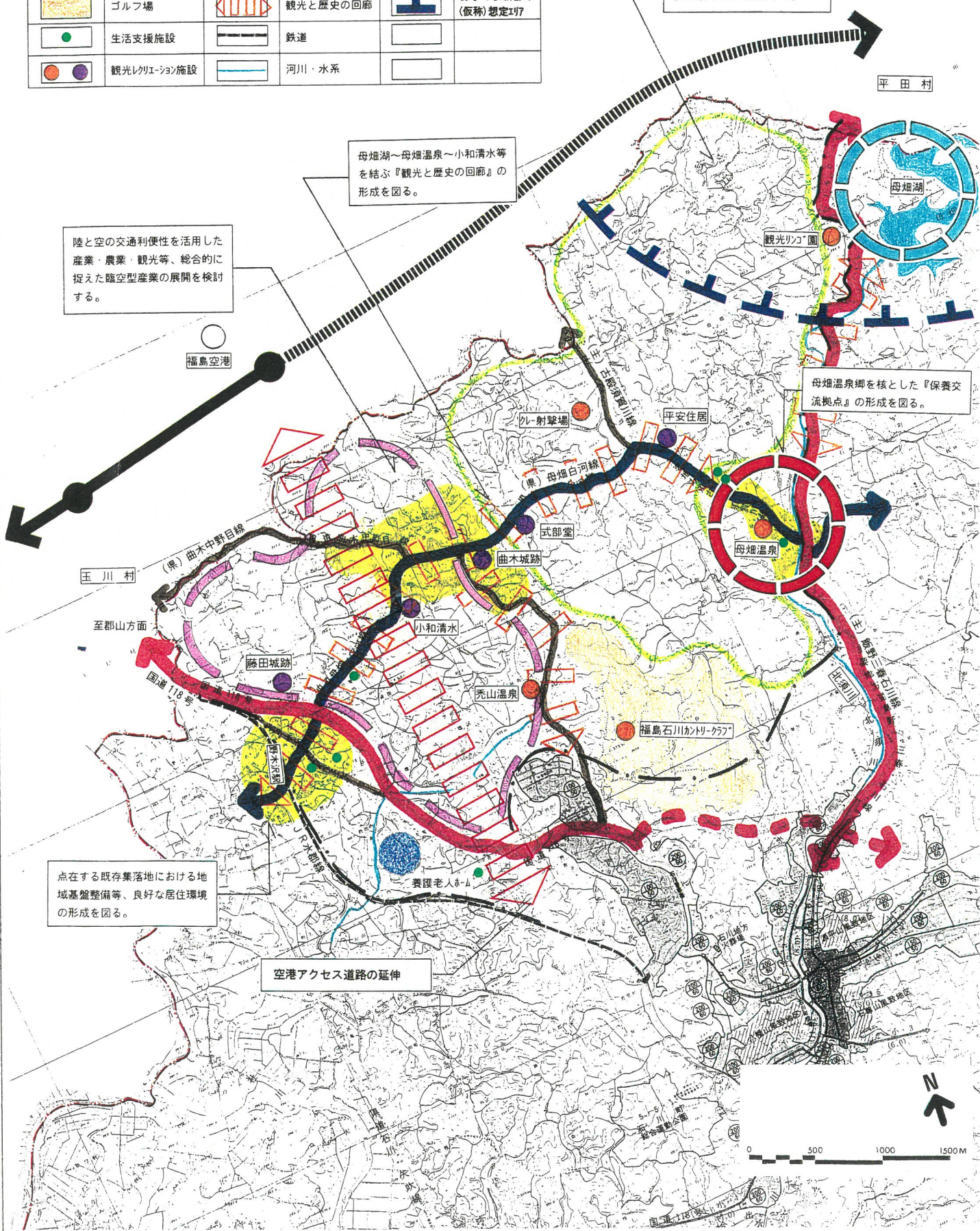
母畑湖～母畑温泉～小和清水等を結ぶ『観光と歴史の回廊』の形成を図る。

陸と空の交通利便性を活用した産業・農業・観光等、総合的に捉えた臨空型産業の展開を検討する。

母畑温泉郷を核とした『保養交流拠点』の形成を図る。

点在する既存集落地における地域基盤整備等、良好な居住環境の形成を図る。

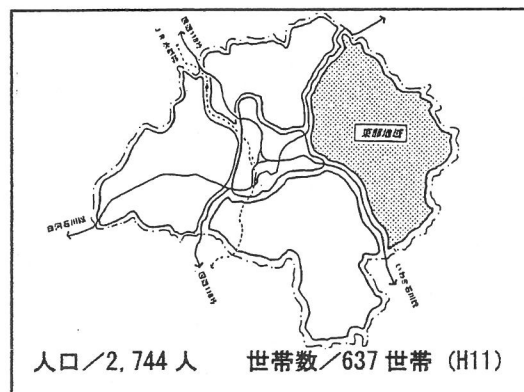
空港アクセス道路の延伸



3. 東部地域

●地域の概要

- ◇山林が多くを占め、山あいや道路沿いに農地や集落が点在している。
- ◇母畑湖、ゴルフ場などのレジャー施設が立地している。
- ◇母畑湖周辺及び県道石川鴛子線、(主) いわき石川線沿いが都市計画区域に含まれるほかは区域外である。



●土地利用状況

- ◇山林が大部分を占め、地域の東南部は標高500m前後の高地である。
- ◇北側に位置する母畑湖より北須川が市街地へと南下して流れているほか、今出川など比較的大きな河川が流れている。
- ◇(主) いわき石川線沿道にはまとまった集落が形成されている。そのほかは県道等の沿道に小規模な集落が点在している。

●交通

- ◇(主) いわき石川線が地域の南側に位置し、古殿町を通過しいわき市へと結ばれている。
- ◇そのほか(主) 飯野三春石川線、(県) 石川鴛子線等の路線が放射状に伸びている。
- ◇山あいには伸びる(主) 古殿須賀川線は一部で幅員の狭い箇所がある。

●主要な生活支援施設

中谷第一小学校／中谷第二小学校／中谷地区公民館／母畑公園／母畑浄水場

●開発動向・主要なプロジェクト等

- ◇あぶくま新都市(仮称)の一部
- ◇南北方向の農免農道の整備(事業中)
- ◇今出ダムの建設

●主要な観光施設

母畑レイクサイト・センター／グリーンアカデミーカントリークラブ

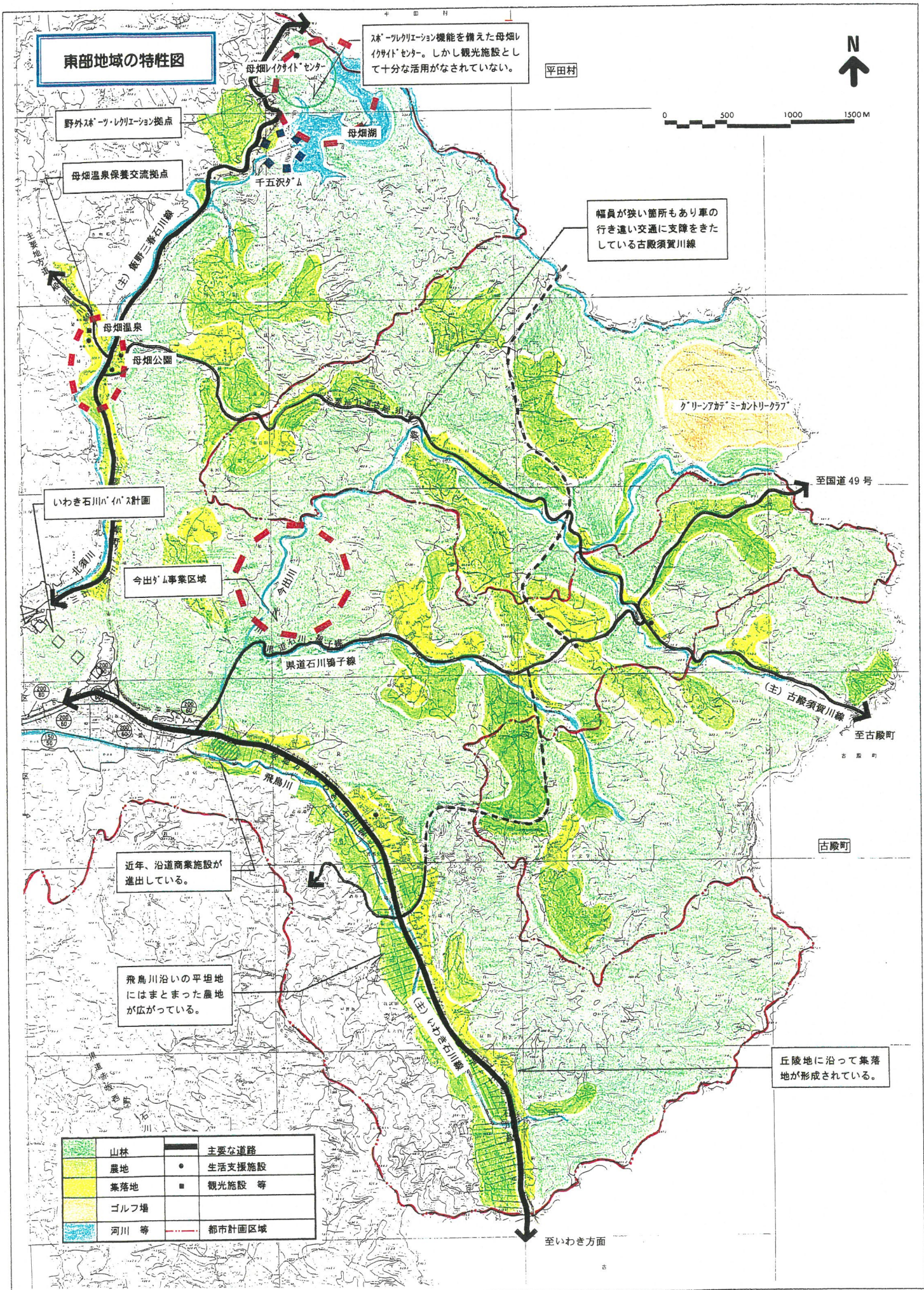
【地域の位置づけ及び課題】

- ◇母畑湖、ゴルフ場等のレクリエーション機能を備えており、観光資源として十分な活用の検討が必要
- ◇今出ダム周辺の多面的な土地利用の検討
- ◇母畑湖周辺におけるあぶくま新都市(仮称)の一部

今後のまちづくりの方向

『豊かな森林と水を守り、様々な活動を育むまちづくり』

- ◇水源涵養等の観点からの森林保全と、緑とのふれあいの場としての保護・活用
- ◇既存集落地や沿道住宅地における良好な居住環境の形成と集落間のネットワークの強化
- ◇今出ダム建設を契機とした周辺地域の基盤改善、レクリエーション機能等を備えた地域交流拠点の形成
- ◇母畑湖及びレイクサイト・センターの「スポーツレクリエーション」機能の拡充



東部地域のまちづくりの方針

◆ まちづくりのテーマ

『豊かな森林と水を守り、様々な活動を育むまちづくり』

◆ まちづくりの方針

① 水源涵養等の観点からの森林保全と、緑とのふれあいの場としての保護・活用

⇒当地域においては都市計画区域外面積も大きいことから、水源涵養及び生態系への配慮の観点から森林保全を図るとともに、豊富な森林空間を活かした緑とのふれあいの場としての保護・活用を図る。

② 既存集落地や沿道住宅地における良好な居住環境の形成と集落間のネットワークの強化

⇒中谷等の既存集落地や（主）いわき石川線沿道の住宅地においては、地域基盤の整備等を図り、ゆとりのある良好な居住環境の形成を図る。

⇒地域間連絡道路として位置づけられる（主）古殿須賀川線の拡幅整備等を進め、地域及び集落間のネットワーク強化を図る。

③ 今出ダム建設を契機とした周辺地域の基盤改善、レクリエーション機能等を備えた地域交流拠点の形成

⇒今出ダムの建設を契機とし、周辺地域の基盤改善を図るとともに、レクリエーション施設やオープンスペースの整備を図り、ダム整備の波及効果を十分に活かした地域交流拠点の形成を図る。

④ 母畑湖及びレイクサイドセンターの「スポーツレクリエーション機能」の拡充

⇒今出ダム周辺の地域交流拠点の形成とともに、母畑湖及びレイクサイドセンターの「スポーツレクリエーション機能」の拡充を図る。

⇒「母畑湖」、「母畑温泉」、「今出ダム」を結ぶスポーツ・保養・レクリエーション施設のアクセス強化を図る。

⑤ あびくま新都市（仮称）の実現

⇒母畑ダム周辺等においては、長期的な視点で自然環境との調和を図りながら、福島県及び隣接町村との協力のもと、新都市の実現を検討する。

東部地域のまちづくりの方針図

	森林及び農地		都市間を連絡する道路		野外スポーツ・レクリエーション拠点
	集落地・住宅地		地域間連絡道路		保養交流拠点
	ゴルフ場		その他の道路		あぶくま新都市(仮称)想定エリア
	生活支援施設		観光と歴史の回廊		
	観光レクリエーション施設		河川・水系		

平田村

母畑湖、レイクサイドセンターのスポーツ・レクリエーション機能の拡充を図る。

母畑湖～母畑温泉～今出ダムを結ぶ、スポーツ・保養・レクリエーション施設間のアクセス強化を図る。

(主) 古殿・須賀川線の拡幅整備、地域及び集落地間のネットワーク強化を図る。

森林資源の維持・保全、緑とのふれあいの場としての保護・活用

グリーンアカデミカントリークラブ

今出ダムの建設を契機とした周辺地域の基盤改善、レクリエーション施設やオープンスペースの整備を図った地域交流拠点の形成を図る。

農免農道の整備による地域間連絡道路の形成

既存集落地の地域基盤整備等、良好な居住環境の形成を図る。

町内最高地点の立地性を活かした眺望スポットとしての整備を図る。

既存集落地の地域基盤整備等、良好な居住環境の形成を図る。

森林資源の維持・保全、緑とのふれあいの場としての保護・活用



1 : 25000

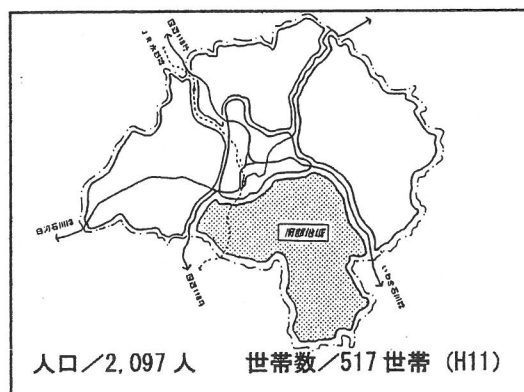
0 500 1000 1500 M

至いわき方面

4. 南部地域

●地域の概要

- ◇山林や農地が大部分を占め、それらに取り囲まれるように小規模な集落が点在している。
- ◇いわき石川線周辺、J R水郡線沿線付近は都市計画区域に含まれるが、それ以外は区域外である。



●土地利用状況

- ◇山林が大部分を占め、地域の東南部は標高500m前後の高地である。
- ◇山あいに農地や集落地が点在し、比較的高地にも農地が形成されている。
- ◇(主) いわき石川線と飛鳥川沿いの平坦地にはまとまった農地が広がっているほか、比較的まとまった集落が点在している。

●交通

- ◇(主)いわき石川線が地域の北東部に位置し、いわき市へと結ばれている。また、(県)赤坂西野石川線が中心商業地より南下し、鮫川村へと伸びている。
- ◇地域の西部にJ R水郡線が、その西側には国道118号が伸びている。

●主要な生活支援施設

山形小学校/南山形小学校/山橋駐在所/山橋地区公民館/特別養護老人ホーム・さくら荘

●開発動向・主要なプロジェクト等

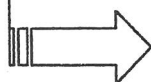
- ◇石川地方一般廃棄物最終処分場の建設

●主要な観光施設

球状花崗岩/中ノ内の藤/塩ノ沢温泉

【地域の位置づけ及び課題】

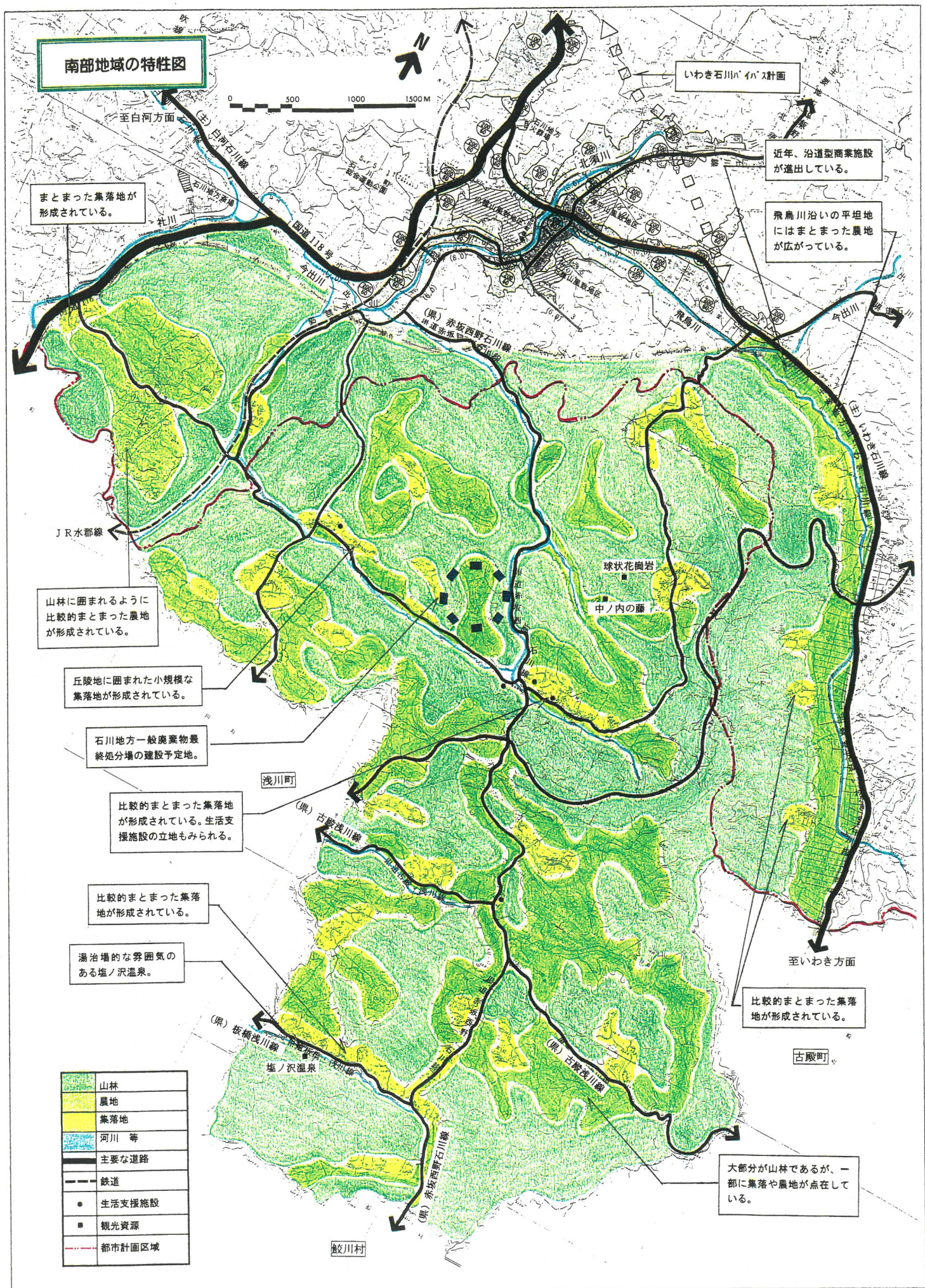
- ◇森に囲まれた集落地の点在
- ◇いわき石川線沿線の一部の農地や広大な面積を有する森林資源等の多面的な利用の検討



今後のまちづくりの方向

『森林と農地が織りなす風景を守り、自然と共生するまちづくり』

- ◇水源涵養等の観点からの森林保全と、緑とのふれあいの場としての保護・活用
- ◇点在する集落地における良好な居住環境の形成と集落間のネットワークの強化
- ◇豊かな自然空間に包まれた、保養・別荘地等としての利用の検討
- ◇いわき石川線バypass整備等に伴うスロープの防止と農地の多面的利用の検討



南部地域のまちづくりの方針

◆ まちづくりのテーマ

『森林と農地が織りなす風景を守り、自然と共生するまちづくり』

◆ まちづくりの方針

① 水源涵養等の観点からの森林保全と、緑とのふれあいの場としての保護・活用

⇒当地域においては都市計画区域外が大半であり、水源涵養及び生態系への配慮の観点から森林保全を図るとともに、豊富な森林空間を活かした緑とのふれあいの場としての保護・活用を図る。

② 点在する集落地における良好な居住環境の形成と集落間のネットワークの強化

⇒点在する既存集落地においては、地域基盤の整備等を図り、ゆとりのある良好な居住環境の形成を図る。

⇒鮫川村方面等の都市間を結ぶ（県）赤坂西野石川線の強化、地域間連絡道路として位置づけられる広域農道及び町道の整備を進め、地域間及び集落間のネットワーク強化を図る。

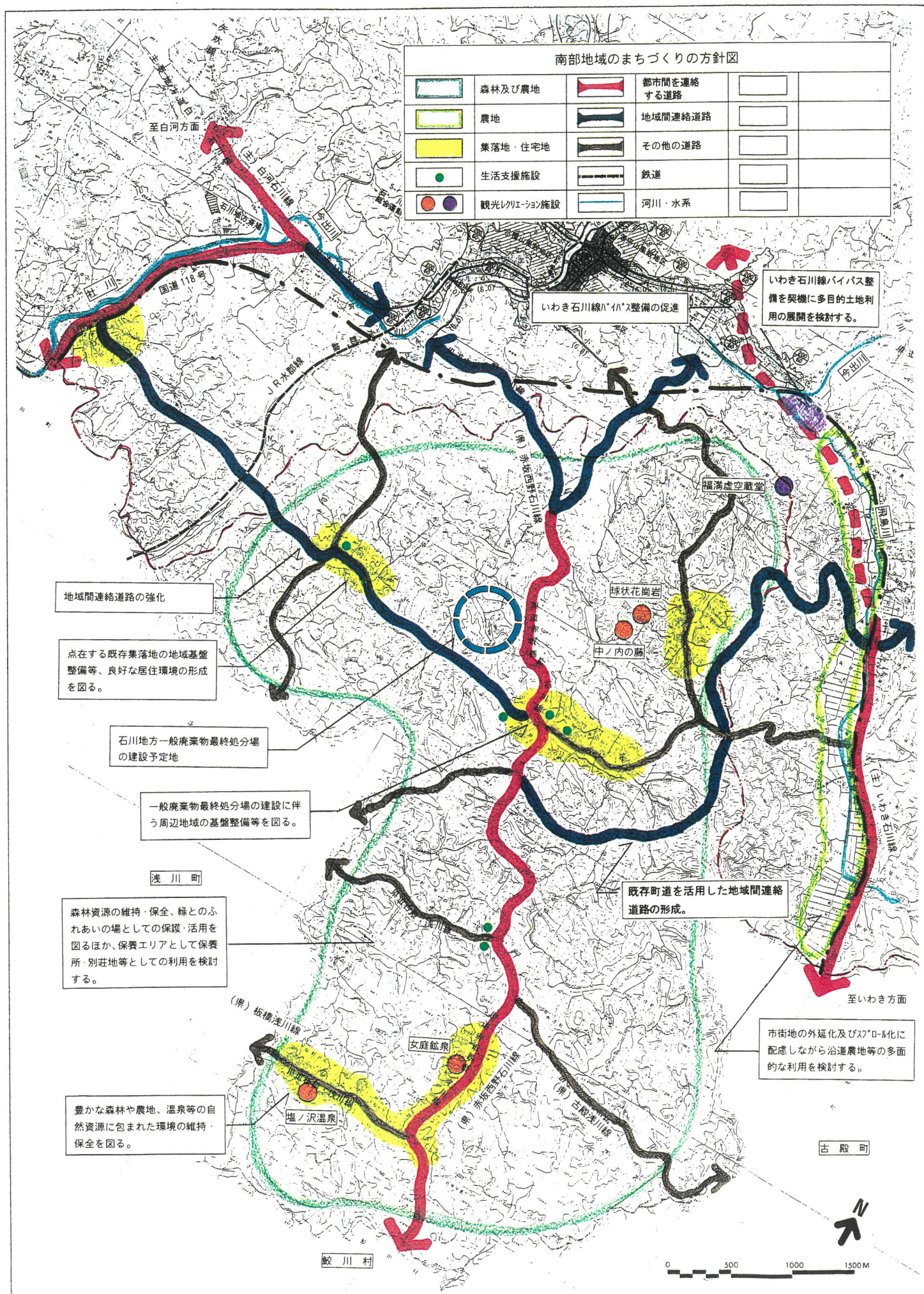
③ 豊かな自然空間に包まれた、保養・別荘地等としての利用の検討

⇒当地域には塩ノ沢温泉もあることから、地域間連絡道路等の整備による交通条件の改善を図るとともに、豊かな森林や農地等の自然空間に包まれた、保養・別荘地等の利用を検討する。

④ いわき石川線バイパス整備等に伴うスプロールの防止と農地の多面的利用の検討

⇒バイパス整備が行なわれる（主）いわき石川線沿線においては、市街地の外延及びスプロール化に配慮しながら沿道農地等の多面的な利用を図る。

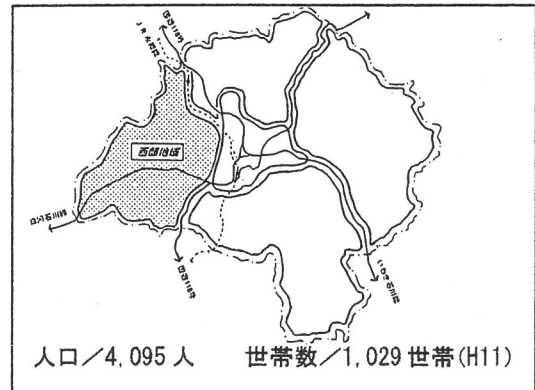
⇒特に、中心市街地に近接した双里・形見地区においては、いわき石川線バイパス整備を契機に多目的な土地利用の展開を検討する。



5. 西部地域

●地域の概要

- ◇比較的平坦地が多く農地として利用されているほか、まとまった集落も点在している。
- ◇鳥内工業団地が形成されている。
- ◇全域が都市計画区域内である。



●土地利用状況

- ◇町内でも最も平坦地が広範囲にわたって広がり、社川及び阿武隈川、主要な道路沿いは農地として利用されている。
- ◇(主)白河石川線沿道及び県道泉崎石川線、石川矢吹線との交差付近には比較的まとまった集落が形成されている。

●交通

- ◇地域の東南部から市街地を通過し、また北側へと国道118号が郡山、須賀川方面に伸びている。
- ◇(主)白河石川線が地域を横断するように伸び、東村、白河市と結ばれている。
- ◇国道118号と(主)白河石川線とを結ぶ道路が整備されている。
- ◇JR水郡線野木沢駅が立地する。

●主要な生活支援施設

沢田小学校／沢田中学校／沢田郵便局／沢田駐在所／沢田地区公民館／石川地方生活環境施設組合

●開発動向・主要なプロジェクト等

- ◇フェニックス構想(国道118号と(主)白河石川線とに囲まれた区域)
- ◇農免農道の整備(事業中)

●主要な観光施設

鳥内遺跡／悪戸古墳群／大壇古墳／成亀温泉／安養寺／白鳥池

【地域の位置づけ及び課題】

- ◇水、緑、集落地、幹線道路等からなる特徴的な田園景観
- ◇白河方面との近接性を生かした広域的な連携の可能性
- ◇石川フェニックス構想・フェニックスゾーンの推進

今後のまちづくりの方向

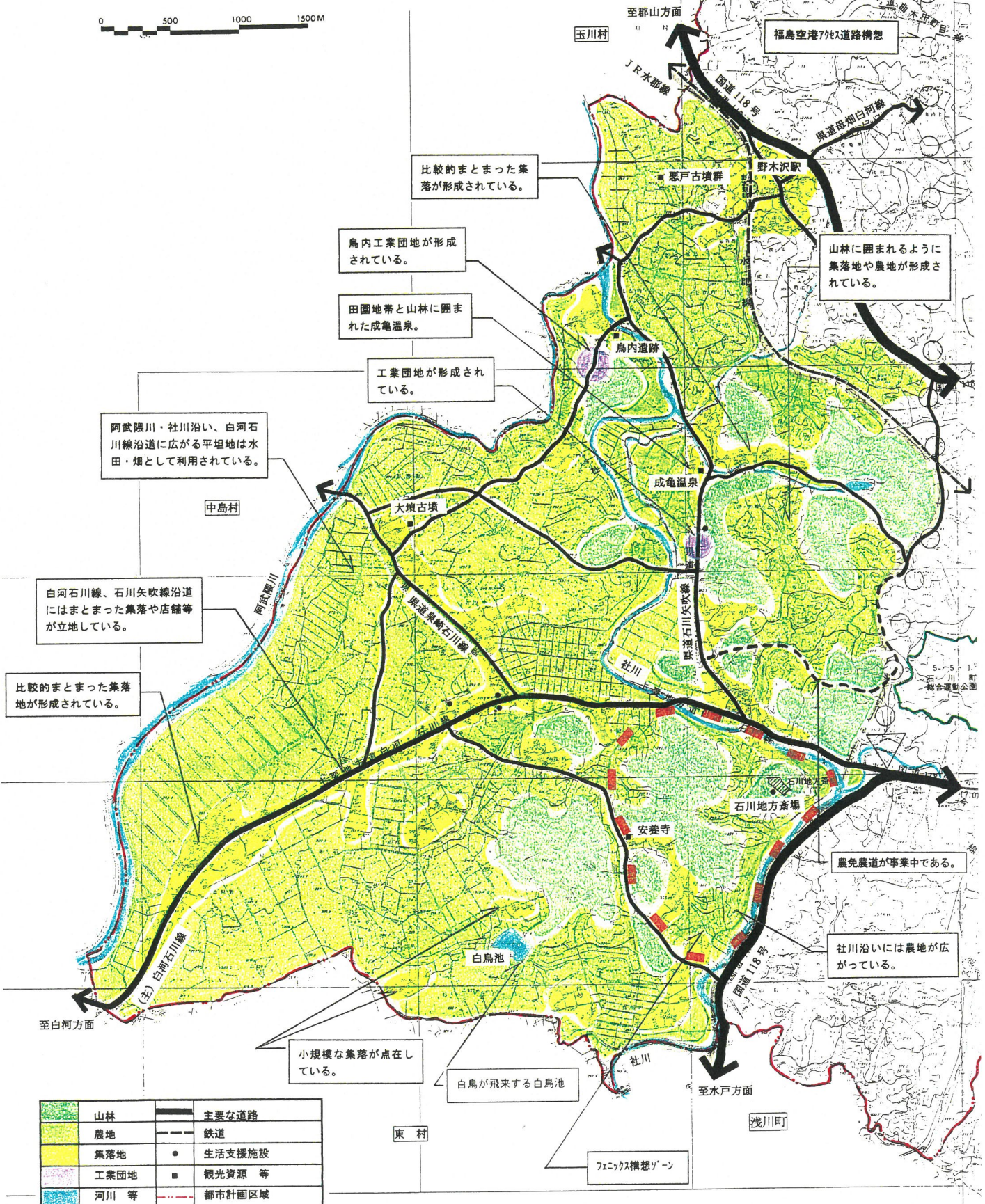
『田園風景を守り、ゆとりある生活空間を創造するまちづくり』

- ◇高生産性農業ゾーンとしての農業生産基盤の整備
- ◇幹線道路沿道の無秩序な市街地化の抑制、既存集落地における良好な居住環境の形成
- ◇周辺環境と調和したフェニックス構想ゾーンにおける複合的な市街地整備
- ◇広域幹線道路及び地域間連絡道路の強化、地域資源等を活用した「観光と歴史の回廊」の形成

西部地域の特性図



0 500 1000 1500 M



山林	主要な道路
農地	鉄道
集落地	生活支援施設
工業団地	観光資源 等
河川 等	都市計画区域

西部地域のまちづくりの方針

◆ まちづくりのテーマ

『田園風景を守り、ゆとりある生活空間を創造するまちづくり』

◆ まちづくりの方針

① 高生産性農業ゾーンとしての農業生産基盤の整備

⇒平坦な地形で農用地の占める割合が多いことから、高生産性農業ゾーンとして育成し、生産基盤の拡充を図る。

② 幹線道路沿道の無秩序な市街化の抑制、既存集落地における良好な居住環境の形成と田園風景の保全

⇒当地域の全域が都市計画区域であることから、(主)白河石川線等の幹線道路沿道の無秩序なスプロール化を抑制するとともに、地域基盤の整備を進める。

⇒既存の集落地についても地域基盤の整備等を進め、ゆとりのある良好な居住環境の形成を図るとともに、阿武隈川や社川等の河川と農地等が織り成す田園風景との調和及び保全を図る。

③ 周辺環境と調和したフェニックス構想ゾーンにおける複合的な市街地整備

⇒周辺環境との調和に十分配慮しながら、フェニックス構想ゾーンについては、複合的な市街地整備を図る。

④ 広域幹線道路及び地域間連絡道路の強化、地域資源等を活用した『観光と歴史の回廊』の形成

⇒広域的な幹線道路として、(主)白河石川線、(県)石川矢吹線の強化を図る。

⇒既存町道等を活用した地域間連絡道路の強化を進めるとともに、地域資源である古墳群・遺跡及び白鳥池等を活用し、母畑・曲木方面から連続する「観光と歴史の回廊」づくりを進める。

	特徴的な緑		都市間を連絡する道路		フェニックスゾーン（複合的市街地整備ゾーン）
	農地		地域間連絡道路		森林・田園・河川風景の保全ゾーン
	集落地・住宅地		その他の道路		
	工業団地		観光と歴史の回廊		
	生活支援施設		鉄道		
	観光レクリエーション施設		河川・水系		



